

天台佛青連



発行元／天台仏教青年連盟

編集／布教広報委員会

発行所／〒372-0003 群馬県伊勢崎市華蔵寺町6-1 華蔵寺内

印刷所／〒960-2101 福島県福島市さくら三丁目2-7 福島カラー印刷株式会社

郵便振替／天台仏教青年連盟 02250-5-6765

題字／第256世天台座主
半田 孝淳 祝下

平成27年
2月28日
発行

index

代表 挨拶	1
天台宗宗務総長 御挨拶	2
延暦寺執行 御挨拶	2
復興支援合同ボランティア活動	3
埼玉結集	4



天台宗防災士協議会設立	5
第36回東日本野球大会 信越大会	6
第6回西日本仏教青年会連絡協議会	7
教区仏青活動レポート	8
茨城仏青／神奈川仏青	
平成26年度 天台仏教青年中央研修会	9



仏法興隆花まつり千僧法要	10
第49回天台青少年比叡山の集い	11
インフォメーション	12
協賛金協力者ご芳名	13～15
平成26年度常任委員会委員長報告	16

邂逅

天台仏教青年連盟代表

井藤 圭順



天台仏教青年連盟の会報発行にあたり、ご挨拶申し上げます。平素より天台宗を始め延暦寺一山、全国の天台宗寺院ご住職様、各教区仏青会員の皆様には私ども天台仏教青年連盟の活動に対しまして、格別のご理解ご協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。特に東日本大震災復興支援ボランティア活動、並びに

防災士資格取得に対しまして、一宗より多大なるご支援を賜わり、継続的な活動の大きな励みとなっております。

さて、近年、日本各地において、地震・津波・竜巻・火山噴火・台風・大雨等の自然災害が多発しており、多くの各教区仏青会員が被災地に出向き、積極的にボランティア活動を行っております。その中で、防災・減災・備災などの専門知識を持った人材育成を目指し、防災士育成研修会を開催しましたところ、会員を中心に、天台宗教師四十六名が新たに資格を取得し、これまでの有資格者を含めると合計五十一名の防災士が誕生いたしました。

その資格を有した天台宗教師は、伝教大師様の「忘己利他」の御教えを拝戴して行動するために、仏青連盟とは別の団体として、平成二十六年五月に、天台宗防災士協議会を立ち上げました。これは、宗教界初の取り組みであり、仏青連盟と致しまして、今後は天台宗と防災士協議会と連携を取りながら防災・減災・備災に取り組みたいと考えております。

そして、九月二十九日～三十日、全国結集を、「天台青年僧がいま学ぶべきこと」をテーマに埼玉で開催いたしました。

祖師先徳讃仰大法会第二期を翌年に控え、伝教大師最澄様の御教えを学び直す機会と捉え、

講師に早稲田大学教授、大久保良峻先生をお迎えし、第一部では「天台宗の特質」と第二部では「伝教大師最澄の仏教」について、二部構成で行い、昨年に引き続き、二〇〇名を超える方々にご参加いただきました。

代表任期中を含め、仏青活動を振り返りますと、天台青少年比叡山の集いや仏青諸行事を通じて邂逅し、一所懸命に実践する中で、多くの方々にご縁を頂戴いたしました。全ての皆様にごいしました。

今後とも仏青連盟の更なる発展のため、皆様の変わらぬご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



御挨拶

天台宗宗務総長

木ノ下 寂俊

多くの人々が犠牲になられた東日本大震災発生から、今年で四年を迎えます。

大震災発生から今日まで天台仏教青年連盟様の活動は迅速かつ目覚ましいものがあり、「己を忘れて他を利する」という宗祖大師のみ教えを身を以て示されたことはご同慶に耐えない次第であり、深い敬意を表するものであります。

さて、平成二十四年四月に開關しました祖師先徳鑽仰大法会は、本年三月に第一期の「慈覚大師一千五百年御遠忌」の円成を迎え、第二期に入ります。第一期、第二期を通じての最大の記念事業は、六十年ぶりの「根本中堂大改修」であります。

根本中堂は宗祖伝教大師のお言葉の柱「道心」を形にした堂宇であり、天台宗信仰の要でもあります。

比叡山について最澄上人は「おのずから住めば持戒のこの山は、まことなるかな依身より依所」と詠んでおられます。

修行するには環境が大事であるとの御諭しがありますが、その最も中心が根本中堂であります。私ども天台宗徒には根本中堂を美しい姿でのちの世に伝える使命がございます。何卒、祖師先徳鑽仰大法会奉修につきましては、天台仏教青年連盟様におかれましても絶大なるご協力をお願いを申し上げます。してご挨拶いたします。



御挨拶

延暦寺執行

小堀 光實

平成二十七年乙未歳も早、二ヶ月が経ちました。天台仏教青年の皆様にはそれぞれのお立場でご健勝にてご活躍下さる事、誠に頼もしい限りで心よりお慶び申し上げます。

平素は総本山延暦寺の法燈護持に又、諸法務事業の執行にあたり積極的なご協力ご奉仕をいただき深謝に重ね厚く御礼申し上げます。

小職、昨年六月末に前任武覚超師の後を承け延暦寺執行に就き已に八ヶ月が過ぎましたが、天台宗総本山法燈護持に微力ながら努めて参りますので、一層のご法助をお願い申し上げます。扱て時恰も、祖師先徳鑽仰大法会第二期執行に重ねて天台仏

教青年連盟の組織発足も節目の四十五周年を迎えられ、宗内は元より社会への更なる諸活動に取り組まれます事、大いにご期待を致しております。

偶々昨年十一月、全国宗務所長会議がありました折り、「天台宗防災士協議会」の発足報告と今後の活動に向けて同会井藤圭順会長さんの代理として、西郊良貴、林俊康両副会長さんより熱いご説明をいただきました。

「東日本大震災発生直後からの天台仏教の皆様による活動は迅速且つ積極的な事であったが、連系行動等の反省点を踏まえ『寺の地域的役割を活かし速やかな被災者支援の為にネットワーク構築に努めたい』とのお話で、と

もすると信仰心宣揚だけに囚われ気味の私にとって地域と一帯となつての寺院活動の在り方を教示いただくものとなり、総本山にありましても防災士の諸活動のみならず、伝教大師さまの「二目の羅、鳥を得る事能わず」、「己を忘れて他を利する」のお言葉通り、地域の方々と一緒になつて努めて参りたく存じます。



東日本大震災

復興支援合同ボランティア活動



天台仏青連盟

事務局次長 横山大山

東日本大震災発生から三年が過ぎました。その間、天台仏教青年連盟では少しでも被災地の復興の役に立てればまた、笑顔をお届けできればと開催した連盟合同ボランティアは、平成二十六年三月十二日・十三日に行った活動で五回目となりました。

内容は、福島県南相馬市鹿島地区西部コミュニティセンターにおいて、三遊亭兼好師寄席・花仙師大神楽の公演を行いました。全国の仏青会員約四十名が参加をして、十二日は、南相馬地区の仮設住宅へ十三日の公演のポスティング作業を行い、「面白そうだな」との声も住民の方々から聞かれました。あいにくの雨模様でしたが、十三日の午前中は天台仏青福島の方々と一緒に仮設住宅集会所においてサロン活動を行い、住

民の方々と楽しい時間を過ごすことが出来ました。午後には、三遊亭兼好師寄席・花仙師大神楽公演を行い、百名を超える方がお見えになり、寄席では終始笑いが絶えることがなく、また、大神楽では息を飲みその演技に見惚れていました。

公演が終わり、皆様が戻られる時に「ありがたない」「楽しかったよ」との声が聞かれました。被災地が、いち早く復興出来るように微力ではありますが、天台仏教青年連盟としては、活動していきたいと考えております。最後に、この合同ボランティア開催にあたりまして、御協力いただきました各仏青会員に厚く御礼を申し上げます。また、次回開催する場合には、御協力お願い致します。



絆創造業 ② 平安閣グループ

平安会館

事前相談受付中

☎052-916-1251

株式会社 平安閣 葬祭部 平安会館 相談 検索

堂宮大工 大都流

株式会社
西嶋工務店

代表取締役 西嶋 靖尚
宮 大工

兵庫県姫路市大津区天神町2-73-5
〒671-1131 TEL 079-236-4881
<http://daiku.iwish.jp/>



天台仏教青年連盟全国大会

埼玉結集

平成二十六年度天台仏教青年連盟全国大会埼玉結集のご報告を申し上げます。

平成二十三年に開催された結集研修委員会において開催を打診され、平成二十四年度の第一回定例代議員会において立候補させていただき、埼玉結集が決定いたしました。これに伴い、当会では実行委員会を発足さ



埼玉仏青 土屋直樹

せ、少しずつ準備をして参りました。

さて、当会では、天台宗の僧侶は古来より学問を特長とすることを重視し、祖師鑽仰大法会期間中の今だからこそ、天台宗の教義と伝教大師最澄の御教えに立ち帰って学ぶべきだと考えました。そこで、埼玉結集開催にあたり『天台青年僧がいま学ぶべきこと』をテーマと

させていただきました。講師には、早稲田大学教授である大久保良峻先生をお招きし、「天台宗の特質」と「伝教大師最澄の仏教」の二部に亘って大変貴重なご講演を賜りました。最新の天台教学を大変分かりやすくお話しいただき、我々天台青年僧における学問の重要性を改めてご教示いただきました。

続く懇親会では、全国



大会より二百名を超える多くの各教区仏青会員が一堂に会すること、とても有意義な親睦の場になったと思います。

翌日の移動研修では、慈覚大師円仁によって創建された喜多院と中院へ参拝し特に喜多院では慈恵堂において護摩供を厳修し、日本各地の被災地域の早期復興と世界平和を参加者と共に祈禱いたしました。昼食後は小江戸川越の散策を行い、その後解散となりました。

最後に、結集開催教区といまして、埼玉仏青会員一同、一丸となって準備を進めてまいりましたが、至らぬ点も多くあったかと存じますが、ご容赦下さいますようお願い申し上げます。そして、埼玉教区をはじめ、多大なるご協力



をいただきました皆様方に対し御礼申し上げ、平成二十六年度天台仏教青年連盟全国大会埼玉結集が魔事なく円成出来ました事への感謝とご報告とさせていただきます。



法衣・稚児貸衣装・仏具荘厳品
贈答記念品・授与品

株式会社 鈴木法衣店

東京店
〒110-0015 東京都台東区東上野6丁目8番8号
TEL 0120(55)0369
FAX 0120(44)7560

埼玉営業所
〒345-0047 北葛飾郡杉戸町高野台東1丁目15-7
TEL 0120(66)0369
FAX 0120(66)5966

ホームページ
<http://www.suzukihouiten.jp>

天台宗の共済

かけがえのない寺院建物
収容動産を火災や水災等の
様々な災害からお護りする

天台宗災害補償制度



天台宗防災士協議会設立

天台宗防災士協議会 副会長 西郊良貴

この度、天台宗防災士協議会を平成二十六年五月二十九日に設立いたしました。

この会は、平成二十五年十二月十七日・十八日に天台宗・天台仏教青年連盟が合同で開催した「防災士育成研修会」で防災士となった会員を中心に、宗内における防災士で組織された会です。

当協議会では、伝教大師様の



『忘己利他』の御教えを根本に、防災士の基本理念である

「自助」

自分の命は自分で守る。

「共助」

地域・職場で助け合い、被害拡大を防ぐ。

「協働」

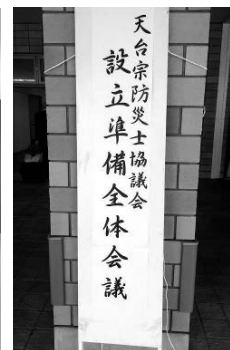
市民・企業・自治体・防災機関等が協力して活動する。

に基づいて、災害発生時における迅速な支援活動を行うための知識・技術の取得、災害時の情報収集・支援活動、平時における防災・減災活動等を行っております。

具体的な活動としては、昨年の長野県、山形県、兵庫県、広島県等で発生した豪雨災害、長野県北部で発生した地震において、各地の仏教青年会と協力する形で災害支援活動、情報収集活動を実施し、資格取得時に得た知識を知識だけで終わらずことなく、災害現場における支援活動を行いました。

今後の活動としては、発生した災害に対するボランティアなどの支援活動、天台宗の災害対策への協力、会員の技術向上のための研修会開催、教区・地域における講習会などへのサポート活動等、防災・減災に関わる活動を天台宗・天台仏教青年連盟・各種団体などと協力し、積極的に展開していく予定です。

しかし、天台宗内の防災士は五十一名しかおりません。近い将来起こると言われている大災害に備えるには、まだまだ防災士の数が足りないのが現状です。今後、防災士育成研修会を計画的に実施し、増員を進めて行きたいと考えております。ぜひ、仏教青年会会員の積極的な防災士資格取得・参加をお願いいたします。また、すでに防災士資格を取得している方がいらつしやいましたら、協議会に入会をお願いいたします。



仏像 仏具 念珠 記念品

(株)高橋法輪堂

〒120-0001

東京都足立区大谷田 3-8-12

TEL03(5849)3853 FAX03(5849)3863

各宗本山御用達
各宗珠数製造販売
お珠数専門の老舗

〒604
8045
京都市中京区寺町通蛸薬師下ル
電話 〇七五(二二)二六〇八
FAX 〇七五(二五六)二二八八

カ
小野珠数店

地水火風空

品質第一をテーマに、自然と調和を大切にした製品作りに励んでまいります。

営業品目 卒塔婆 角塔婆 経木塔婆 プラ札 各種特許あり



塔婆製造販売

(株)協和木工所

東京都西多摩郡日の出町平井1316

TEL. 0425-97-0732

FAX. 0425-97-1816

第三十六回 東日本仏青親睦野球 信越大会

信越仏青 小林玄超

平成二十六年五月二十六・二十七日に信越仏青主催による東日本親睦野球大会が行われ、各仏青様より一五〇名を越える会員様にお越しいただきました。

第一日目には信州松本 美ヶ原温泉にて熱く懇親を深め、翌日の野球大会のリーグ抽選会が行われました。懇親会も終わった二十二時頃、俄に雨が降り翌日の大会が危ぶまれました。

しかし、明けて第二日目。朝靄の中、空を見上げれば青空が広がり、グラウ

ンドの状況を確認に行った当会員からの「問題なくプレイが出来ます」の報告に一同胸を撫で下ろしました。

さて、快晴の中始まった親睦野球大会。午前は三チーム毎のリーグ戦、午後は勝ち進んだ四チームによる決勝トーナメント。白熱した試合、笑顔の溢れる試合と様々な中、リーグ戦を勝ち残ったのは兵庫・岡山合同チーム、南総チーム、茨城チーム、埼玉チーム。決勝トーナメントでは、更に引き締まった試合が繰り広げられ、サヨナラ勝ちで優勝の栄冠を勝ち取ったのは茨城チームさんでした。今大会ではチャリティとして、

三振・エラー等があった場合に一〇〇円程度の募金をお願い致しました。全チーム合わせて三万七千四百円もの浄財が集まり、その全額を救済委員会を通じて募金をさせていただきました事をご報告致します。

最後になりますが、準備不足の中、本大会を無事に終えられました事は各教区の皆様のご協力があつての事と思います。ここに感謝申し上げます。

東日本仏青親睦野球大会に参加して

栃木仏青 源田清弘

平成二十六年五月二十六・二十七日、長野県の松本市にて、天台仏教青年会甲信越十二チームによる第三十六回東日本仏青親睦野球大会が開催されました。第一日は会場である「美ヶ原温泉ホテル翔峰」では各仏青からの多くの参加者、来賓を含め約一七〇名が集まり、心温まるおもてなし、試合抽選会や各チーム紹介など、大変盛大かつ和やかに懇親会が始まりました。また次回開催地である当栃木仏青が締め言葉させていただき結びとなりました。

第二目の二十七日、昨日から夜半まで降り続いた雨天の心配も早朝には払拭されて、まさに絶好の野球日和となりました。会場はあずさ運動公園にて、参加チームは四グラウンドに分かれ、雄大な北アルプスをバックグラウンドに予選トーナメントが開始されました。

プレイボール宣言時にルール説明があり、三振などはペナルティとして必然的にチャリティ募金が課せられたこともあり、趣向を凝らした大会でした。白熱した試合が続けられ、各チームファイナルプレイも続出し、昼一時過ぎには中間発表。珍プレイ好プレイ発表も盛り上がり、各ブロックから勝ち上がったチームが決勝トーナメントへ、予選敗退チームは各自自由となり、とても時間配分の上手な進行でした。どのチームも優勝してもおかしくないほど激しい戦いとなり決勝戦は茨城チームと南総チーム。見事優勝は昨年に引き続き茨城チームでした。

次の大会を開催させていただく栃木教区としては、来年の五月十一・十二日を目標に教区青年会一丸となつて来年度を執行したいと思います。今大会のように、汗をかきながら、我々青年僧侶間の親交が深まりますように精一杯準備を重ねて皆様方のご来場をお待ちしております。



第六回 西日本仏教青年会連絡協議会

岡山仏青 吉山 亮仁

十月二十三日、第六回西日本仏教青年会連絡協議会が岡山全日空ホテルを会場に開催されました。

当日は約五十名の西日本の各仏青会員が参加し、パネリストに特定非営利法人AMDA理事・国際部部长難波妙氏、天台

宗防災士協議会会長井藤圭順師、同副会長西郊良貴師、またコーディネーターにRNN（人道援助宗教NGOネットワーク）委員長永宗幸信師をお迎えし、災害発生時における防災・備災をテーマにシンポジウムを行いました。



開会の後、岡山天台仏教青年会の今井龍晋会長より、災害発生時に仏青・寺院としてどのようにに救援活動にあたるかを、救援活動の先駆であり幅広く活躍中のAMDA・RNNとのシンポジウムを通して多くを学ぶ場となる様子に、という今会の主旨を中心に挨拶があり、シンポジウムが始まりました。

まずは各団体の紹介、活動の意義と目的、各団体の緊急時に

おける活動、そしてどの様な団体と協力するとより有意義と感じるか、といった次第内容に沿って、実際の活動経験を織り混ぜながら進められました。この中で、AMDA難波氏は、東日本大震災の救援活動の際に一隅を照らす総本部との連携活動を行った事、災害救援時のローカルイニシアチブの重要性、寺院の持つ地域との繋がり（家族情報・地域情報）がより良い対策を講じる要因の一



つとなる事、等を紹介されました。RNN永宗師は、多宗教間の連携による活動の中で、宗教者として出来る事、しなければならぬ事を行う事で、他には出来ない心のケアが可能となる事、また各地域との宗教を越えたネットワークによってより幅広い情報の共有や発信が可能となり、それを救援活動に活かせる事等、実例を踏まえて紹介されました。天台宗防災士

協議会からは、災害発生に備える事（備災）、自助から共助、協働へ繋げていく事、また発足間もないため、様々な団体との協力を通じて活動手段を学んでいく事、等が示されました。

三者それぞれの活動を聞く事によって、各々参加者が災害救援時に寺院が出来る事、地域で出来る事、また常に備えるという事を提起させる意義ある会となりました。



茨城
仏青

五十周年記念について

茨城仏青 笹沼俊匡

去

る、平成二十六年十月十六日、吉田山神宮寺薬王院本堂に於いて、茨城仏青創立五十周年記念法要として、「如法写経十種供養式」が厳修されました。この日を迎えられる事は、歴代先徳、各御住職様、又、仏青会員、一人ひとりの御尽力の賜物であり、私もその一人として、携わらせていただく事ができ、感謝しております。



さて、ここまでの行程と言いますと、まず、実行委員会を発足し、総務部、法要部、運営部、悉曇本編集委員会と各部に分かれ、其々の立場でベスト

を尽し、茨城仏青が一丸となれた様に思えました。「段取り八分」という言葉がある様に、大きな事を成すには、準備段取りが八割、本番が二割と言うそうです。それだけ、準備段取りが何事にも大切であり、今回、五十周年記念事業では、それが実行でき、故に円成に至ったのだと思います。

最後に、諸先輩方々の想いを心に留め、私個人も、日々の精進を一層行う次第です。

神奈川
仏青

創立四十周年の御礼とご報告

神奈川仏青 溝江光宣

平

成二十五年より二年間を周年期間として、天台仏青連盟全国大会神奈川結集の開催、結集の講師としてお招きした天台宗勸学 多田孝正先生の講義録の発行、記念祝賀会、山陰出雲地方への記念研修旅行、最後に記念誌を発行して、創立四十周年記念事業は皆々様のお蔭をもちまして、無事に円成することが出来ました。有難うご



ざいました。

記念祝賀会は教区内御寺院諸大徳様、歴代会長様、天台仏青連盟代表井藤圭順師、当会のテレフォン法話による布教活動において、多大なご支援を頂戴している株式会社連華堂社長 神田信男様のご臨席を賜り、伝統や歴史を振り返る機宜になりました。

なお、結集の講義録は大会に参加された皆様へ、記念誌は各教区仏青様まで謹呈送付いたしておりますので、ご一読いただければ幸いです。

私たちはすでに、次の周年事業に向けて歩み始めました。今後ともご厚誼を宜しくお願い申し上げ、略儀ながら書中にて御礼とご報告を申し上げます。



平成二十六年 天台仏教青年中央研修会

天台宗務庁 社会部 社会課 課長 高見 昌良

平成二十六年の中央研修会を開催するにあたり、天台仏教青年連盟の役員方とも相談させていただき、祖師先徳鑽仰大法会慈覚大師一千五十年御遠忌を記念し発行されました『法華三昧行法』の解説を第一の講義とさせていただきます。講師に延暦寺一山求法寺住職武覚超師をお迎えし、四時間にわたり熱のこも

ったご講義をいただきました。講義を受けられた皆さまにとっても、日本天台における法華三昧行法の重要性を再度確認いただけたのではないのでしょうか。

また、二日目には『妙法蓮華経』を写経いただきました。連盟会員の皆さまも、各自坊で写経会等を開催されている方がいらつしやると思いますが、写経を先導すべき我々が、実は実際に写経をする機会が少ないのが現状ではないでしょうか。やはり、檀信徒の方に指導をするからは、自ら行うことを欠いてはいけません。

と思います。『能言能行』宗祖のお言葉を実践する機会となったのであれば幸いです。

妙法蓮華経写経につきましては、今後数年は継続させていただき、各年の中央研修会参加者が少しずつ書き上げていってもらいたいと思っております。

今回、参加者よりいただいたご意見も参考にさせていただき、今、天台宗として皆さまに研修していただきたい内容を精査し、来年度の研修会も計画していきたいと思っております。



「中央研修会を終えて」

兵庫仏青 宇代 阿海

このたび、初めて天台仏教青年中央研修会に参加させていただきました。た。

一日目は延暦寺一山求法寺住職の武覚超先生より法華三昧行法の解説と実習についてご講義いただきました。そもそも法華三昧行法とは何か、その歴史的経緯や行法の内容等、豊富な資料を交えてじっくりと解説いただきました。先生ご自身も籠山中に法華三昧行を実践されており、儀軌の内容だけでなく実体験も踏まえた行の取り組み方や心構えについて丁寧にご教示いただきました。

二日目は全員で法華経の書写を行いました。定められた時間での写経でしたが、先生の講義でおっしゃられた「まさに一心に精進すべし」（法華経普賢菩薩勸発品）の言葉を心掛け、一字一字心を込めて取り組みることができました。

今回の研修は法務や仕事をする上での取り組み方を省みる良い機会となりました。充実した時間を与えていただきましたこと心より感謝申し上げます。

仏法興隆 花まつり千僧法要

へ平成二十六年四月二十六日 奈良東大寺大仏殿にて

全日本仏教青年会 事務局長 野澤 智秀

平成二十六年四月二十六日「仏法興隆 花まつり千僧法要」統合の祈り。世界平和すべての安穩のために」が奈良東大寺に全国より青年僧が集結し盛大に厳修されました。

大仏殿に続く参道は土曜日ということもあり、大勢の参拝者で埋め尽くされ、四百名を超える青年僧の行列がその中を進み、大仏殿へ向かいました。一行は大仏殿の盧舎那仏様が鎮座される蓮台に上り、先ず天台宗仏教青年連盟による声明「散華」が奉唱され、声明に合わせて参加者

全員で散華が行われました。天台宗青年僧により清く莊厳された大仏殿において、各加盟団体の法要が厳修され、東大寺に奉納された大般若経六百巻が転読されました。結びには伊東全日仏青理事長による御回向がなされ、宗派を超えた統合の祈りを僧俗一体となり、盧舎那仏様へ言上させていただきました。

大仏殿での法要後は、アショカピラー宝塔において南都二六会会長導師の下に法要を厳修し、参道では広宣布教として参拝者の方々に「花の種」を配布する活動を行いました。

本年の千僧法要も、天台仏教青年連盟各

聖の御尽力を賜り、大円成就しました。

ご理解ご協力に深く感謝申し上げます。

名もの青年僧が進み、先ず始めに天台宗仏教青年連盟による声

千僧法要

心をひとつにして

茨城仏青 赤津 道明

平成二十六年四月二十六日、

奈良東大寺盧舎那仏御宝前に於いて全国各地から宗派を越えて、青年僧の方々が集結し仏法興隆花まつり千僧法要が厳修され、また東日本大震災及び各地災害復興祈願として、災害の犠牲者への追悼、慰霊法要が執り行われました。

この千僧法要は私にとって仏青に入会して間もない中で参列となり、他宗の方々との交流等無知であり緊張するばかりでしたが、大仏殿に続く参道を威風堂々と行列で進む青年僧の方々を拝見し「感動」という空気に包まれ、誇りに変わったのを感じられたものでした。

その一行が向かった先は、目も眩む様な大仏様が鎮座なされている蓮台。この蓮台に約三百名もの青年僧が進み、先ず始めに天台宗仏教青年連盟による声



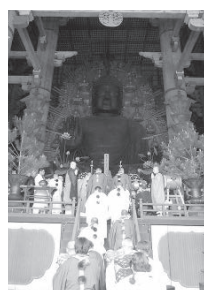
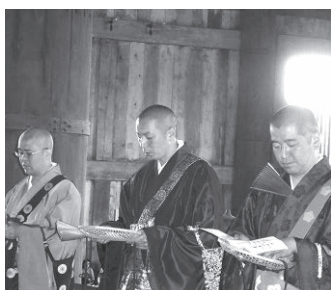
明が奉唱され、声明にあわせ散華を行いました。続いて日蓮宗の凛とした大仏殿全体に響き渡る題目、真言宗の大般若経転読、曹洞宗の威勢の良い太鼓と他宗派の法要を間近で拝見し肌で感じ取れたことに素晴らしい貴重な時間、そして体験をさせていただきました。

この法要を通し私が一番感じ得たことは、宗派を越えて青年僧の方々が大仏様、そして東日本大震災並びに各地災害で被害にあわれた方々に同じ目的で集い、心をひとつにして祈り続ける姿というのは残されたご家族の苦悩、そして苦痛に対し少しでも苦しい想いを和らげ、安らぎに変わり、生きるという強い心を与える。その様な空間に同列出来、私も一心不乱に祈り捧

げられた事に心から感謝の気持ち、そして意義のある法要であったと自負致しております。

これから先、どの様な時代の流れになつて生きていくのかなど無知の世界であります。千僧法要を通じ感じ取れた他宗を越えての祈りをそして大切な縁というものを次世代の青年僧の方々にもこの仏法興隆を通じ繋げていただければ幸いに存じます。

あの日あの時出会えた縁を生涯忘れる事なく仏の教えを学びそして身に刻み、苦悩されている人々の糧となり寄り添える様な僧侶となれるよう日々精進していく覚悟で御座います。



統合の祈り。世界平和
すべての安穩のために



第四十九回 天台青少年比叡山の集い

「伝教大師最澄様の人材育成の具現として」

実行委員長 寺本 亮晋

「天台青少年比叡山の集い」は、天台宗と比叡山の共催の下、全国の小学六年生から中学三年生までを対象として、毎年八月初旬に行われる研修です。研修生は、比叡山という環境の中、三つの誓い（伝教大師が目指した国宝的人材となるための

三つの実践項目）・平和の合い言葉（世界の平和を目指す三つの目標）・発心会・三塔巡拝・営火という五つの柱を実践します。宗祖伝教大師がそのご生涯を人材育成に捧げたように、未来の人材を育成しているというこの研修こそ、まさに宗祖の思いを現代に具現化して

いると言っても過言ではないでしょう。

本年度の「集い」は、被災された教区からの参加者も含め、全国から百八十九名の研修生にご参加いただきました。そして、指導を担当するのは、実行委員会を始め、全国の仏教青年会の会員を中心とした六十八名の若いリーダー達です。リーダーは一丸となって、研修生の安全を脅かすことのないよう気を引き締



め、より安心で魅力的な研修となるよう心がけました。今年は幸い、期間中が比較的涼しかったこともあり、体調を崩す研修生はほぼおらず、研修がより充実したものになったのではないのでしょうか。

さて、「集い」はいよいよ来年、他の団体に先駆けて五〇回を迎えます。実行委員会では節目の第五〇回に向けて、何か記

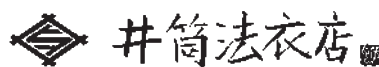
念になることを企画しております。企画が決定次第、発表させていただきますので、その際には現役リーダーは元より、OBの方々にもご支援・ご協力いただきますようお願い申し上げます。

リーダーも研修生も、全国から満遍なくご参加いただきたいと思っておりますが、天台仏青連盟と全国の仏教青年会のご協力がなければ、この「集い」は成り立ちません。ぜひ一度、どのような形でも構いませんので「集い」に参加していただき、宗祖の思いを具現しているこの素晴らしい研修を共有し、さらに後世につなげていっていただきたいと思えます。



遠藤新兵衛商店

〒600-8334
京都市下京区油小路通六条南入
電話 (075) 351-1367
FAX (075) 351-1476



代表取締役社長 幾田 潤

〒600-8503
京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)
電話 075-365-0001(代) FAX 075-353-7021
東京店/東京都新宿区三栄町11-6
電話 03-3358-1500(代表)

総本山延暦寺 御用達

中末法衣店

〒606-8287
京都市左京区北白川上池田町12-1
TEL 075-723-8865
FAX 075-723-8867

全国大会「兵庫結集」のご案内

平成27年11月4日(水)～5日(木)
書写山圓教寺／姫路キャスルグランヴィリオホテル等

日本仏教の母山「比叡山」を本山とする私たち天台宗では、悠久の歴史の中、宗祖伝教大師をはじめ、多くの祖師先徳がお示しになられた御教えを受け継ぎ、その志を次の世代に引き継いでいくのは責務であります。しかし近年の社会情勢の中、伝統の上に胡座をかいているだけでは、近い将来仏教は衰退してしまうという危惧が指摘されています。

そこで、平成27年には、「光伝えよ法の灯」―相承と創造―と題し、天台仏教青年連盟主催の全国大会兵庫結集を開催し、この問題について天台青年僧として再認識し、活路を見出す機会にさせていただきたいと考えています。

また近年の全国大会結集ではホテルでの開催が多くなっていますが、伝統の教えや文化を肌で感じていただけるよう古刹「書写山圓教寺」をメイン会場として考えています。

講演は、嘶家桂南光師をお迎えします。落語の世界にも古くからの技芸・風習・思想を継承しながらも、新しい展開を進め多くの人に認められているものがあります。そういった他の分野を参考にすることにより、天台青年僧に問題提示ができればと考えます。

大会を通じて、参加者が天台宗の青年僧侶として、祖師先徳が築かれた礎を継承しながらも、今の時代の世相にあった宗教活動を模索し実践へとつなげていただければと存じます。

仏青会員各位には、お誘い合わせの上ご参加いただきますようお願い申し上げます。

(兵庫天台仏教青年会結集実行委員長 大塚貫哲)

第37回 東日本仏青親睦野球 栃木大会のお知らせ

【大会日程】

平成27年5月11日(月)～12日(火)
・11日／懇親会 ・12日／野球大会

【大会会場】

石井緑地公園 4面(宇都宮市石井町2326)

【懇親宿泊会場】

ホテル ニューイタヤ
(宇都宮市大通り2丁目4-6)

★栃木仏青では、宇都宮市内での実施を企画しております。教区仏青間の更なる交流の場と成りますよう努めておりますので、栃木仏青一同皆様のご参加をお待ちしております。

【問い合わせ】

栃木県天台仏教青年会事務局

天台仏教青年連盟HPの ご案内

<http://www.t-y-b-a.com/>
または『天台仏教青年連盟』で検索

このHPは天台宗青年僧が連盟活動として、また各教区仏青活動としてどのような事を行っているかを周知していただけるように活動を掲載しております。

全国の会員の皆様には他教区仏青の活動を知っていただく事で自教区の活動の参考にしていただき、諸大徳には青年僧の活動を周知いただければ幸いです。

近年は複数仏青が合同で行事を開催することや他教区仏青活動に参加されることも徐々に増えていることだと思います。教区の垣根を越えた活動がより一層活発化していくことも期待し、今後も更新を行っていきます。会員の皆様には各仏青活動の報告をいただきますようお願い申し上げます。

〈情報通信委員会〉



平成26年度天台仏教青年連盟 救援募金のご報告

●長野県南木曾町豪雨災害……合計200,000円

●山形県南陽市豪雨災害……………合計190,000円

●平成26年徳島県台風11・12号災害
……………合計140,000円

●8月京都府・兵庫県豪雨災害 ……合計140,000円

●平成26年広島県大雨災害 ……合計496,436円

●長野県神城断層地震災害………合計110,000円

●連盟地球救援募金……………合計940,036円

合計……………2,216,472円

ご協力いただきました各仏青様に感謝いたします。
今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

〈救援委員会〉

※上記の支援金・募金は平成27年1月末日現在です。

天台仏教青年連盟

協賛金協力者ご芳名（敬称略）

皆様の絶大なる御支援に心より御礼申し上げます



延暦寺執行 小堀光實		一隅を照らす運動 総本部長 横山 照泰		社会部長 角本 尚雄	教学部長 中島 有淳	財務部長 田中 祥順	法人部長 長山 慈信	総務部長 阿部 昌宏	天台宗務総長 木ノ下 寂俊	天台宗務庁
東海教区 延命寺 村上圓竜	四国教区 松岳寺 永合 韶俊	岡山教区 千光寺 葉上 観行	兵庫教区 八葉寺 國岡 恵心	近畿教区 本山寺 百濟 寂仁	宗議会議員 (寺籍簿順)		東京教区 大圓寺 寺本 亮洞	東京教区 深大寺 張堂 完俊		
群馬教区 妙見寺 小川 晃豊	埼玉教区 福正寺 大澤 貫秀	南総教区 観明寺 細野 舜海	北総教区 東榮寺 玉田 法信	茨城教区 如意輪寺 船戸 俊宏	栃木教区 光樹院 柴田 立史	栃木教区 圓林寺 柳澤 最伸	福島教区 金礼寺 林 光俊	群馬教区 東漸寺 河合 祖信		
陸奥教区 観音寺 鮎貝 宗城										

森 喜 良 三岐教区 常住寺	永 宗 幸 信 岡山教区 本性院	雲 井 明 善 兵庫教区 長光寺	高 岡 保 博 近畿教区 松尾寺	教区宗務所長 (寺籍簿順)	富 樫 和 廣 山形教区 柏山寺
木 本 清 玄 埼玉教区 福正寺	浅 野 玄 航 南総教区 妙音寺	中 里 康 道 北総教区 長樂寺	杜 多 徳 雄 東京教区 法藏院	溝 江 光 運 神奈川教区 妙樂寺	中 村 廣 文 東海教区 成願寺
梶 谷 隆 幸 玄清法流 成就院	千 葉 亮 賢 陸奥教区 満福寺	矢 島 義 謙 福島教区 観音寺	齋 藤 宏 明 栃木教区 月藏寺	酒 井 貫 全 茨城教区 圓滿寺	谷 晃 昭 群馬教区 西光寺
久 保 寺 美 好 三岐教区 華嚴寺	森 妙 香 九州西教区 宝満山妙香庵	高 倉 聖 法 九州西教区 種因寺	秦 順 照 九州東教区 臨濟寺	高 木 亮 享 近畿教区 那智山青岸渡寺	宗内御寺院・団体 (寺籍簿順) 5口以上ご協賛の方
杉 谷 義 純 東京教区 圓珠院	宮 崎 光 通 東京教区 延命寺	鷹 野 慈 誠 神奈川教区 東圓寺	生 方 常 明 神奈川教区 天王院	酒 井 妙 照 東海教区 明光院	戸 塚 長 孝 東海教区 観音寺

結集研修委員会

委員長（神奈川） 西郊 良貴



— 担当 —

本山・兵庫・九州東
神奈川・埼玉・北海道

平成二十六年年度秋の代議委員会の結集研修委員会のご報告を致します。

結集の開催教区の選定を始め、開催に至るまでの様々な準備のお手伝いや助言等を行っています。また、中央研修会のテーマ内容及び講師の選定を企画検討し本庁と連携をはかりながら仏青会員諸師の興味や時代にあった研修会を協議しています。

今年度の結集に関しては、埼玉仏青さんが主体となり、連盟役員と委員会と幾度と無く打ち合わせを重ねて二百名を超える大変多くの仏青の皆様にお集まりいただき、盛り上げていただきましたこと委員会として厚く御礼申し上げます。また、来年度は兵庫教区仏青での開催になります。主会場では書写山圓教寺を予定して御座います。全国の仏青の皆様には多くの御参加と御協力を御願ひ致します。

◆結集開催予定

平成二十七年・兵庫教区仏青
平成二十八年・北海道教区仏青
平成二十九年・九州東教区仏青
平成三十年・群馬教区仏青（予定）
平成三十一年・岡山教区仏青（予定）
平成三十二年・本山中央結集

（創立五十周年記念）

救援委員会

委員長（福島） 林 俊康



— 担当 —

京都・近畿・信越・南総
栃木・福島・山形

今年も全国各地において様々な自然災害が発生し想像を超える甚大な被害が頻発しており、その都度ボランティア活動や托鉢による募金活動等ご協力いただきました事、深く感謝申し上げます。

救援委員会では、平時の活動として募金活動の協力を呼びかけ、結果や代議員会等でも募金活動を実施しております。災害時においては災害救助法の適用を参考にし義援金を拠出し同時に各委員が担当都道府県の被害状況の調査や情報収集を行い、必要に応じて周辺教区仏青に救援活動の依頼をする体制を整えております。また、支援団体として一隅を照らす運動総本部、PMJバンニヤメツタ協会の二団体を支援する事としております。今後は、救援委員会マニュアルを活かし災害発生時だけでなく、平時においても連盟役員、各委員の近隣仏青とも連携をしながら活動をして参りたいと思います。

今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

情報通信委員会

委員長（群馬） 谷 晃仁



— 担当 —

岡山・山陰・九州西
東京・群馬・陸奥

情報通信委員会はホームページに各仏青活動を掲載することで、全国の会員には他教区仏青の活動を知っていただき自教区の活動の参考にしていただくこと、諸大徳には青年僧の活動を周知いただくこと、一般の方々には天台宗青年僧の活動を知っていただくことを目的に活動しております。

近年は複数仏青が合同で行事を開催することや他教区仏青活動に参加されることも徐々に増えていることだと思えます。教区の垣根を越えた活動がより一層活発化していくことも期待し、今後も更新を行っていきます。

また、東日本大震災以降は災害状況の情報共有の場としてや、ボランティア活動報告や参加者募集のツールとしても使われております。会員の皆様には各仏青活動報告を多くいただき益々情報交換の場となりますようご協力申し上げます。

連盟HPアドレスは十二頁に記載がありますのでそちらを参照下さい。

布教広報委員会

委員長（三岐） 久保寺 福美



— 担当 —

滋賀・四国・三岐・東海
北陸・北総・茨城

当委員会では、会報「天台佛青連」の発行をしています。今回は昨年に引き続き、井藤代表が強く推し進める「災害に強い仏青」の名のもと、連盟主催の復興支援合同ボランティア活動をはじめ、天台宗防災士協議会の設立、会報初掲載となる西日本連絡協議会では防災研修会を取り上げました。

また会報作成以外では、一期二年という短い任期に起因する活動の継続性や引継ぎの問題を改善すべく、これまでは主だつて委員長のみがしていた引継書作成を、副委員長、担当役員まで枠を拡げ、それぞれが担当した役割や経験を感じた課題等を踏まえて作成する事で、役員改選後の新委員がより円滑に活動が出来る様に努めました。

この会報誌と次回に発行の臨時号をもちまして現委員での活動は最後となりますが、今後とも引き続きましてご愛読とご指導の程、心よりお願い申し上げます。

編集後記

あつという間でしたが、お陰をもちましてなんとか任期満了を迎えることができました。思い起こしますと綾小路代表の時から当委員会に配属され、はや四期八年が経ちます。その間、仏青創立四十周年という節目、また東日本大震災が起きたり、本当に色々な事がありました。それらの多岐にわたる経験を通して、様々な方と接するなかで沢山の事を学ばせていただきました。色々と至らぬところばかりでしたが、お世話になった方々にこの場をお借りして心から御礼申し上げます。

次号からは新委員を迎え、また新たな企画、紙面が創られます。本年宗内では中央布教師養成所が設立された様に、布教や広報活動は時代と共に様々に変容していき、本委員会はまだまだ未知なる可能性を秘めていると思います。

今後とも皆様の変わらずのご愛読、ならびに貴重なご意見ご感想をお寄せいただきます様に心からお願い申し上げます。

布教広報委員 久保寺 福美